

今月号の主な内容は、

- 工事の進捗状況等
 - ・内部火災対応
 - ・建屋開口部への自動閉止装置の設置

○静岡県と御前崎市による点検および確認
です！



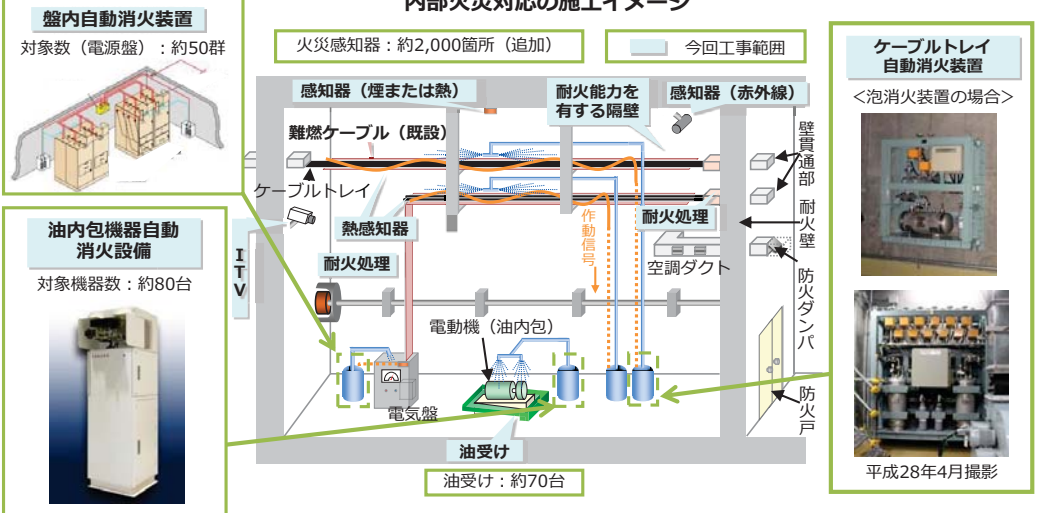
【工事の進捗状況等】

○内部火災対応 【写真撮影箇所：敷地図①】

発電所内での火災により原子炉施設の安全性が損なわれないように、以下の対策を実施します。

- ①火災発生防止（発火性または引火性物質を内包する系統の漏えい防止対策、漏えい拡大防止対策等）
- ②火災感知および消火（火災感知器・自動消火設備の追設）
- ③火災の影響軽減（火災区域等および隣接する火災区域等における火災による影響に対し、耐火隔壁の追設等を実施）

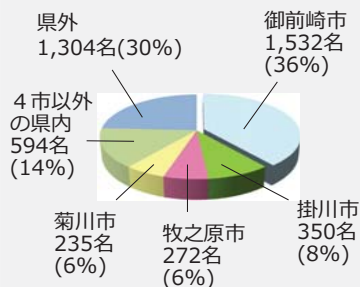
内部火災対応の施工イメージ



浜岡原子力発電所従事者数 （5月1日現在）

4,287名（安全性向上対策工事従事者以外を含む）

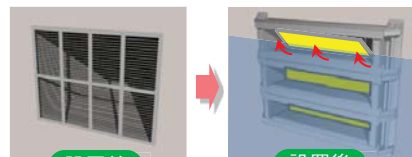
【御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住：2,389名(56%)】



○建屋開口部への自動閉止装置の設置 【写真撮影箇所：敷地図②】

重大事故等の発生をより確実に防止するため、原子炉建屋中間屋上の高さ（海拔20m程度）までの建屋開口部に自動閉止装置を設置し、建屋内への浸水を防止します。

建屋開口部自動閉止装置のイメージ



設置前

設置後



設置前



設置後

【静岡県と御前崎市による点検および確認】

5月12日、当社が実施している津波対策工事ほか追加工事について、御前崎市立会の下、静岡県による点検を受けました。53回目となる今回は、地下配管ダクト点検口・入口扉等閉止、4号機取水槽地盤改良工事（取水槽補強含む）、補給水系などの注水配管の追設について点検を受けました。

静岡県から、「本日点検をおこなった3つの項目については、中部電力の計画どおり工事がおこなわれていることを確認した。なお、補給水系などの注水配管においては設備の追加設置に伴い系統が複雑となっていることから、非常時に迅速な対応が可能となるよう訓練等をおこない、ソフト面の対策も充実を図って頂きたい。」との講評をいただきました。

御前崎市から、「対策工事が着実に進んでいることを確認した。安全を第一に、ハードだけではなくソフト面の対策も確実に実施して欲しい。」との講評をいただきました。



地下配管ダクト点検口・入口扉等閉止（津波対策）点検の様子



4号機取水槽地盤改良工事点検の様子



補給水系などの注水配管の追設点検の様子
[写真：4号原子炉建屋（放射線管理区域）]

【審査会合】

原子力規制委員会による新規規制基準適合性確認審査を受けています。
（3,4号機を申請中ですが、現在4号機の審査が進められています。）

＜4号機の進捗状況＞

（平成28年5月27日現在）

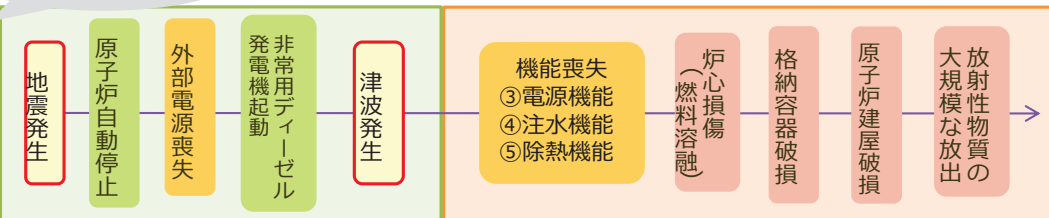
項目	地震・津波等に関する事項		プラントに関する事項	
	回数	計画	回数	計画
	計13回	合同で2回実施	計52回	

審査は、地震・津波等に関する事項とプラントに関する事項に分けておこなわれています。今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力していきます。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

①福島第一の話 福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話 従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定の大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、備え付けの設備だけではなく、可搬型の設備も配備しています。

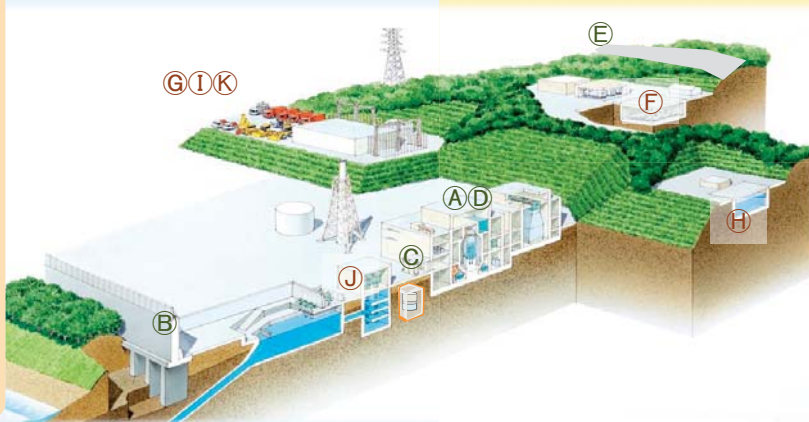
【主な設計基準対策設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

- 地震に耐える。**
 - Ⓐ配管サポート
- 津波を浸入させない。**
 - Ⓑ防波壁
 - Ⓒ大物搬入口
- 自然災害に備える。**
 - Ⓓ竜巻防護ネット
- 防火対策**
 - Ⓔ防火帯

【主な重大事故等対策設備】重大事故等の発生に備え、冷やす機能を確認し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

- 電源機能強化**
 - Ⓕ恒設
 - Ⓖガスタービン発電機
- 注水機能強化**
 - Ⓖ可搬
 - Ⓖ交流電源車
 - Ⓕ緊急時淡水貯槽
 - Ⓖ可搬型注水ポンプ車
- 除熱機能強化**
 - Ⓖ緊急時海水取水設備
 - Ⓖ可搬型取水ポンプ車

重大事故時に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確認し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。



③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班の立ち上げ準備をおこなっています。

24時間 365日体制 緊急時に特化した幅広い対応力



役割 (現在11名)
 ・戦略検討
 ・アクセスルート確保
 ・可搬設備の操作等
 現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>
 ・大型自動車免許
 ・けん引免許
 ・移動式クレーン免許
 ・危険物取扱者（乙種4類）など

【資機材の充実】

発電所での活動に支障をきたさないよう様々な資機材を配備しています。

配備数を見直し、必要に応じて追加しました。



シンチレーションサーバイメータ

タイベックスーツ

【訓練の充実】目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



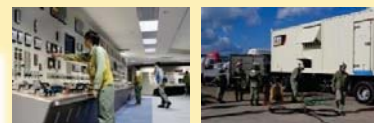
主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を平成27年度から実施しています。

現場訓練



シミュレータ訓練

電源車操作訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。

浜岡原子力発電所では、4号機は平成28年9月、3号機は平成29年9月完工を目標に工事を進めています。また、配備された設備が期待どりの機能を発揮することができるよう現場対応力を強化しています。今後とも、更なる安全性の向上に努め、地域をはじめ社会のみならず、より信頼される発電所を目指して取り組んでまいります。